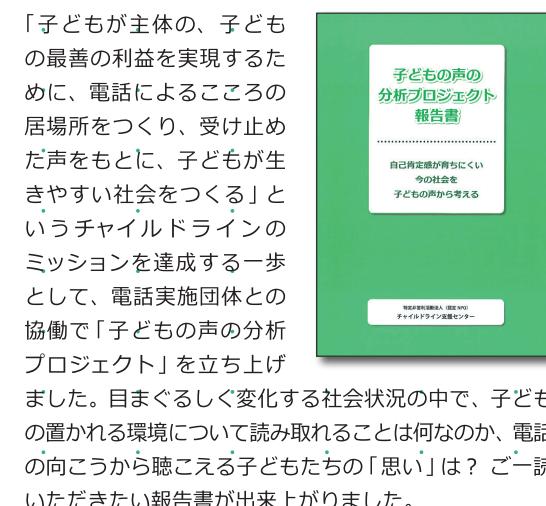


1

子どもの声の分析 プロジェクト報告書 発行



2

ご支援・ご協力 ありがとうございます

子ども専用のフリーダイヤルをはじめ、チャイルドライン支援センターの活動は、多くの方からのご支援によって成り立っています。ご寄付をいただいたみなさまに、この場を借りて御礼申し上げます。

● 2016年3月～5月のご寄付総額 4,976,973円

また今後も、フリーダイヤル等の活動継続のため、年間2,000万円のご寄付が必要です。支援会員（個人年会費10,000円／団体年会費50,000円）を随時募集しています。何卒ご支援くださいますようお願いいたします。

※当団体は国税庁の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税や法人税の優遇を受けることができます。

三井住友銀行 浜松町支店
普通 6967526
名義 特定非営利活動法人
チャイルドライン支援センター
表示 トクヒ) チャイルドラインシンセンタ

引き続き…
フリーダイヤル等の
活動継続のため、
お力添えを
お願いいたします

ゆうちょ銀行
振替口座 00120-5-425245
(○一九支店 当座0425245)
口座名 NPO法人チャイルドライン支援センター

発行日：2016年7月20日

発行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）

〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-5 曙橋コーポ2階 TEL: 03-5312-1886 FAX: 03-5312-1887

URL: <http://www.childline.or.jp/> E-mail: info@childline.or.jp



チャイルドライン 全国フォーラム 2016 in 福島

東日本大震災から5年余りを経た福島において、子どものグリーフ＆トラウマケアについて共に学び、考え、日々の活動に生かしていきましょう。

【日時】10月22日(土)23日(日)24日(月)

【主要プログラム】

◆10月22日(土) 会場: S-PAL ネクストホール

基調講演 「子どものグリーフケア」

講師=シンシア・ホワイト氏

上映会 福島県相馬高校放送局制作

「今伝えたいこと(仮)」

シンポジウム

◆10月23日(日) 会場: コラッセふくしま

分科会: こころのケア、被災地支援などのテーマ(予定)

◆10月24日(月)

福島県沿岸部スタディツアー

講師紹介=シンシア・ホワイト氏
Kids Hurt too Hawaii創設者。
30年以上にわたり死別・喪失体験やトラウマ体験をした子どものケアに取り組んでいる。
<http://www.grievingyouth.org/>

編集後記

4月には九州での地震、6月の九州の豪雨と、どこでどんな災害が起きるかわからないこの国で、どんな時でも慌てず落ち着き、「子どもの声を聴き、寄り添う」ことがチャイルドラインで活動するということだとあらためて実感します。

そして活動を継続するためにご支援ご協力いただいているみなさま、いつもありがとうございます。理事が改選された新体制で、ますます世の中で必要とされる活動であるために、何より子どもたちのために、大人であるわたしたちが今するべきことにフォーカスしていくと思います。（S.M.）

特定非営利活動法人（認定NPO）

チャイルドライン
支援センター ニュースレター

vol.
131

News Letter



巻頭言

「災害時のこころのケア」 — 聴くということ —

東日本大震災から5年余りが経ちました。宮城県、岩手県の沿岸部では土地のかさ上げ工事が進み、以前とはまったく異なる町の基礎が少しづつ姿を現すとしています。しかしながら、災害復興住宅の完成は未だ5割程度に止まっており、仮設住宅で息を凝らしながら生活をしている子どもたちも少なくありません。また、震災後の離婚により経済的困窮状態にあるシングルマザー家庭も増加しています。そこには、未婚のまま予期せぬ出産を余儀なくされている若い母親たちの姿もあります。

震災を体験した子どもたちのこころの問題も深刻です。5年前の3月11日に石巻市立大川小学校で起こった出来事をご記憶の方も多いことでしょう。北上川の河口からおよそ4キロの川沿いに位置する大川小学校では、川を遡つて来た津波によって、全校児童108人の7割にあたる74人が死亡・行方不明となりました。10名の教職員も子どもたちと共に犠牲になっています。

津波が襲った際に裏山に這い上がり九死に一生を得た生徒もいます。Aさんはその中の一人で、現在、地元の公立高校の2年生になっています。セーラー服を着た彼女は、外見上、他の同級生の生徒と異なることはありません。しかし、震災後PTSD（心的外傷後ストレス障害）を発症し、5年余りたった今も言葉を発することができないまでいます。Aさんと同じように、地震や津波を経験した子どもたちの多くが、トラウマ（心的外傷）を抱えながらも必死に日常生活を生きていることを私たちは忘れてはなりません。

トラウマを抱える子どもたちがPTSDを発症せずに生活するためには、身近な第三者の寄り添いや支援が不可欠で

す。トラウマを体験した直後の過覚醒期のこころから、第三者が、しっかりと子どもたちの傷ついたこころを受け止め、寄り添うことが求められます。抱え込んだ感情の表出を支援することも重要です。過覚醒期のケアのあり方によって、「トラウマの再体験」や「回避・麻痺反応」を抑えることが可能ですし、PTSDを発症する割合も格段に下がるものと私は考えています。

今回の震災の中では、残念ながら私たちを含めた周りの大人们が、充分に子どもたちのこころのケアに力を注ぐことができなかつたように思われます。予期せぬ非常時のことですから、それもやむを得ないという考え方もあるかもしれません。しかしながら、私たちチャイルドラインの使命は、どんな状況にあっても「子どもの最善の利益」を担保することです。東日本大震災で失われた無数のいのちに報いるためにも、子どもたちが抱えている苦しみを我が身に引き換えて、しっかりとそのこころを聴き、寄り添うことのできるチャイルドラインでないと、今、改めて思うのです。今年4月に起きた熊本大地震のように、天災・人災はいつどこで起こるかわかりません。「そのとき」のために、私たち一人ひとりの受け手・支え手が、日常の中でしっかりと備える努力を払わねばなりません。Aさんのなかで起こっていることが再び繰り返されないように—。

チャイルドライン支援センター 代表理事 神 仁

●監事
児玉勇二、梅澤元彦
●相談役
太田久美、上野和子
●アドバイザー
清川輝基、内海裕美、喜多明人、坪井節子

新体制 紹介

2016年度は役員改選にあたり、理事6名が退任し、6名が新たに就任いたしました。新体制一同、力を合わせて、活動の推進に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

じん ひとし 神 仁<代表理事>公益財団法人全国青少年教化協議会主幹・常任理事
まつえ ひさこ 松江 比佐子<常務理事>NPO法人チャイルドラインとちぎ理事長（北関東・信越エリア）
むらかみ としや 村上 敏也<常務理事>県立広島大学大学院経営管理研究科准教授
いまと けんたろう 家本 賢太郎IT企業「株式会社クララオンライン」創業社長
かなこ ゆみこ 金子 由美子NPO法人さいたまユースサポートネット学習支援教室代表
せきど まさき 関戸 真紀チャイルドラインいづみ、いづみこどもAID代表（北陸・近畿エリア）
たなか さとし 田中 哲東京都立小児総合医療センター副院長、児童精神科医
たの ひろみ 田野 浩美せたがやチャイルドライン支え手・運営委員（南関東エリア）
なかむら たける 中村 尊チャイルドラインながさき共同代表（九州・沖縄エリア）
みずくち りょうこ 水口 良子NPO法人チャイルドラインさっぽろ支え手・事務局長（北海道・東北エリア）



オンライン相談 試行報告

社会状況の変化にともない、子どもの利用するコミュニケーション手段は、電話からメールあるいはLINE等のSNSに替わってきており、事務局にもメールなどでの相談を求める声が多く届くようになっています。また海外ではオンライン上で相談を受けるチャイルドラインが増えてきています。こうした状況を受け、チャイルドライン支援センターとして初めて、オンライン上の相談を試行しました。

<相談用システム>

イギリスのチャイルドラインでは「メール」「チャット」「掲示板」等の機能を備えていますが、3月の試行では、電話と近い同期性を持ったチャットにて行うこととなりました。「Chamo Chat」というチャットサービスを使用することになり、システムの提供会社に相談したところ、社会貢献として無償で利用させていただけることになりました。

<試行>

実施日時：2016年3月24日（木）～3月30日（水）

日曜含む7日間 16時～21時

相談窓口：ウェブサイト上に専用ページを設置

（パソコン、スマートフォンの両方から利用可能）

相談形態：利用者と受け手による一対一のチャット

実施体制：毎日＝受け手23名（のべ83名）

支え手2～3名（すべての日に配置）

*パソコン1台につき受け手2名を配置、常

時2～4台稼働

広報：オンライン相談用カード8万枚を配布

<実施結果について>

システムの解析データによると、7日間に相談用ページを訪問した人数はのべ696名で、そのうちの約3割にあたる202件に対応することができました。

チャット画面

オンライン相談用カード



電話と比べて、会話成立の比率が高く、対応時間は長くなる傾向があるなど、電話との違いが明らかになりました。また、子どもたちが文章で気持ちを表現しようとする中で、自分を見つめ返し、整理していく様子がうかがえるなど、文章による表現・相談の有効性も確認されました。

※対応したスタッフのふりかえりから

- LINEなどのように、チャットはスピードが速く、こちらが対応しきれるかという不安があったが、実際には思ったよりもゆっくりだった。
- イメージしていたような碎けた表現はあまり見られず、丁寧な言葉遣いだった。

今後の課題として、子どもの自死が多くなる長期休み明けなどに試行を数回繰り返し、課題を解決しながら、受け手の増員や、経験蓄積とスタッフの技術向上を目指していきたいと考えています。

対応件数	訪問者数	対応件数
3月24日～30日	696名	202件

（主訴）※会話成立時

学校	自分		
人間関係	11件	心のこと	3件
いじめ（被害）	4件	気分の落ち込み	10件
勉強	6件	自信のなさ	2件
パワハラ	1件	強迫観念	1件
その他	1件	自死念慮	4件
部活		自傷行為	2件
人間関係	6件	体のこと	2件
指導方法	1件	性格のこと	3件
その他	1件	進路生き方	4件
家庭		恋愛	12件
人間関係	13件	雑談	3件
虐待（身体的）	1件	その他	3件
教育虐待	1件	職場	
ネットトラブル		人間関係	1件
人間関係（学校）	2件	性	
人間関係（その他）	3件	自慰	1件
その他	1件	性行動	2件
地域		性の多様性	1件
習い事（その他）	1件	計	108件
その他	1件		

チャイルドライン
支援センター

活動報告
2016.2～2016.6

空白地域の 子どもたちへの広報



昨年10月に行ったクラウドファンディングで集まったご支援をもとに、チャイルドラインのない地域の子どもたちへの広報に取り組みました。今回は茨城県、神戸市、佐賀県、熊本県、熊本市、沖縄県の教育委員会から了解をいただき、中学生約24万人にカードを届け

ることになりました。カードの発送作業は2月いっぱいかけて行き、クリックテック・ジャパン株式会社、三和グループ社会貢献俱楽部、東京海上 Share Happiness 俱楽部との協働で行い、社員のみなさまにボランティアとしてご参加いただきました。

2月～4月	発信数	着信数	平均通話
茨城県	2,193件	953件	4分49秒
兵庫県	3,355件	1,260件	4分34秒
佐賀県	1,236件	450件	4分03秒
熊本県	466件	152件	8分10秒
沖縄県	712件	218件	5分03秒
計	7,962件	3,033件	4分47秒

熊本地震への対応

このたびの地震災害と、その後の豪雨により、被害に合わせた方に心よりお見舞い申し上げます。チャイルドライン支援センターでは、被災地域の子どもたちのこころのケアやサポートのため、現地を訪問し、さまざまな対応を進めてきました。

4月末に、まず九州エリアのチャイルドライン実施団体が有志で集まり、今後の対応を協議。5月上旬には、神代表と上野理事が現地に入り、協力者とともに避難所や教育委員会を訪問、今後の支援のあり方を模索するとともに、チャイルドラインの周知を行って回りました。また九州エリアのチャイルドラインスタッフを対象に、トラウマケアやグリーフケアについての講義を行いました。その後、熊本県内の小中学校・高校・特別支援学校には番号カードを送付し、また6月からは九州全体で日曜日も電話をかけられるよう、体制を強化して臨んでいます。各地の実施団体からは災害支援として482,058円の寄付が集まっています（6月末時点）。

災害などの非常時には、なるべく早いケアが求められます。基本は、普段電話で子どもたちに寄り添うことと同じように、電話の向こうにいる子どもが何を求めているのかを感じながら、自分たちの担うべき範囲で、丁寧に気持ちを受けとめていくことです。今は一人でも多くの子どもに、安心して話せる場所があることを知ってもらい、一本でも多くの電話を受け継いでいくことを大切にしていきたいと思います。

NHK「いじめを考える キャンペーン」への協力

NHKの実施している「いじめを考えるキャンペーン」に協力し、キャンペーンサイト内の「100万人の行動宣言」に、全国のチャイルドラインから集まった約200通のメッセージを送りました。また、Eテレの学校向け番組「いじめをノックアウト」において制作されたキャンペーンソング「あの空」の著作権料が、チャイルドライン支援センターに寄付されることになりました。

総会報告 & 2016年度主要事業計画概要

6月4日（日）墨田区すみだ産業会館において2016年度の通常総会が行われました。昨年度の事業・決算報告後、エリア化に関する議論を行いました。その後、2016年度の主要事業計画・予算案・組織体制案が発表され、事業内容を一部修正のうえ、承認され、2016年度の活動がスタートしました。

『2016年度事業計画』

1. チャイルドライン事業

- 統一番号フリーダイヤルの実施（通年）
- 電話データの集積
- 全国フォーラムの開催
- 全国運営者会議・エリア会議の開催
- オンライン相談の研修と試行

2. アドヴォカシー（社会発信）事業

- 広報活動
- アウトリーチプログラムの開発
- 子どもの生きやすい社会を作るための社会発信
- 被災地支援



電話件数

NTTコミュニケーションズトラヒック調査ツールより



春休みや連休明けなど、長い休みのあとに子どもの自死が増えることが、昨年の内閣府発表のデータによりわかっています。クラスや学校が新しくなり、仲間づくりなど大きく環境が変化するこの時期は、子どもたちの様子を注意深く見守る必要があります。

2016年3月～5月	前年同期比 (2015年3月～5月)	前期比 (15年12月～16年2月)
発信数	145,775件	-14,000件
着信数	55,248件	+1,196件
着信率	37.9%	+5.7%
平均通話	5分46秒	-43秒
総通話時間	4,935時間	-299時間
		+474時間